鳥取臨床科学 11(2), 111-116, 2019

作業療法士学科学生における医療専門職獲得への意欲と達成動機づけとの関連について

和田義哉 [1)]　辻村肇 [1, 2)]
1) 学校法人大阪滋慶学園　鳥取市医療看護専門学校　教務部
2) 大阪電気通信大学　医療福祉工学部

A relationship between eagerness and achievement motivation for acquisition of healthcare profession in the students of Occupational Therapist Department

Yoshiya Wada[1)], Hajime Tsujimura[1, 2)]
1) Education Department, Tottori Medical Nursing Vocational School
2) Faculty of Bio-medical Engineering, Osaka Electro-Communication University

要旨

本研究では，入学時から 1, 2, 3 年次の作業療法士学科の学生に，作業療法士になりたい意欲を測定し，次いで，意欲の増減によって，達成動機測定尺度における自己充実的達成動機，競争的達成動機に関する点数にどのような違いがあるのかを調べた．その結果，入学時に比べて, 2 年次において作業療法士になりたい意欲が他の群に比べて下がっていた．この意欲が下がった群では，自己充実的達成動機の点数が低かった. 2 年次の意欲低下の理由については，この時期に初めての実習を経験したことや，専門科目の増加により学習が難しくなったことが考えられる．意欲の低い学生が自己充実的達成動機づけにおいて低い点数なのは，自分を高めることの努力が乏しい学生が，学習等で困難を感じると意欲が削がれてしまったためと推測される．鳥取臨床科学 11(2), 111-116, 2019

Abstract

In this study, eagerness of students who want to become an occupational therapist was measured in the 1st, 2nd, and 3rd year students of the Occupational Therapist Department. In addition, how changes in their eagerness affect the score of self-fulfillment achievement motivation and competitive achievement motivation were examined using the achievement motivation measurement scale. The results show that the eagerness to become an occupational therapist at the 2nd year decreased compared to that at other time points including at the time of entering the school. The group with decreased eagerness showed lower scores in the self-fulfillment achievement motivation. The reasons for the decreased eagerness were believed to be that they experienced the first practice at that time, and studying became difficult due to an increase in specialized courses. The students with low eagerness obtained low scores in the self-fulfillment achievement motivation, and this was due to a presumption that the students who made less effort to improve themselves lost motivation when they felt difficulty in studying

Key words: 作業療法士学科, 医療専門職獲得, 達成動機づけ, 自己充実的達成動機, 競争的達成動機; occupational therapist department, acquisition of healthcare profession, achievement motivation, self-fulfillment achievement motivation, competitive achievement motivation

1. はじめに

医療系の大学や専門学校に進む学生は, 医療専門職の獲得を最終目標として, 各養成校に入学して来る. しかし, 実際入学して様々な教科の学習や実習などの学校生活を経験して行くと共に, 専門職獲得への意欲に変化が出ることがある.

平野ら [1] は, 2〜4 年次の作業療法士の学生に「作業療法士になりたい度」を評価させたところ, 3 年次秋が最も低く, 4 年次の後期が高かったと報告し, その原因として, 3 年次に初めて臨床実習を経験したことを挙げている. また, 韓ら [2] は, 4 年制の養成大学において, 理学療法士になりたい気持ちと職業的アイデンティティの関連を調べた結果, 3 年次の時に理学療法士になりたい気持ちが低くなり, 長期実習を控えて一時的に不安になり有能感が低下したと考察している. また, 理学療法の専門知識を蓄積したことによる考え方の変化も示唆している.

このような意欲の原動力となるのが動機づけ (モチベーション) である. 動機づけにも様々なものがあるが, 学習に関する動機づけについては, 原 [3] は, 理学療法士養成校において, 学習動機づけが初年次から 2 年次にかけて変化があり, 学習の重要性を認識したうえで具体的な学習方法へ意識が変容すると述べた. また, 成田ら [4] は, 学習動機づけの継時的変化の内容について, 1 年次は利益や利得を求めて学習する傾向が強いが, 卒業時には報酬志向を持つ学生がほとんどいないことを示した.

医療専門職の養成校における学習動機づけに関する研究は様々あるが, 目標志向活動としての達成動機づけとの関連については, あまりなされていない. 達成動機づけとは,「ものごとを最後までやり遂げたい」,「困難なことにも挑戦し, 成功させたい」という動機づけである. 達成動機づけは, 当初, 達成動機の高さを社会発展の原動力と見て, 競争社会を意識したものであったと考えられていたが, 一方で, 社会にとって価値のあることだけでなく, 個人にとっても価値のあるものに挑戦し, それを成し遂げようとする傾向の強さと定義されている [5]. その上で, 達成動機づけを自分なりの達成基準への到達を目指そうとする「自己充実的達成動機」と, 他者との競争との中で社会から評価されることで目指そうとする「競争的達成動機」の 2 側面がある [6]. 看護学生の就業動機について調査した結果, 競争意識の強い学生ほど動機づけが高められ, 看護の学びから内的報酬を得ていると感じている学生ほど, 自己向上志向動機が高くなるという [7]. また, 競争を回避することがネガティブな学習動機（脱モチベーション）を引き起こすという [8].

本研究では, 入学時から卒業時までの作業療法士になりたいという意欲を測定し, どの時期に意欲の増減が見られるか. また, 作業療法士になりたい意欲の増減が, 達成動機づけの自己充実的達成動機と競争的達成動機の点数にどのような違いがあるのか検証したので報告する.

2. 方法

被験者は, 鳥取市医療看護専門学校作業療法士学科（3 年制）学生の 1 年次が 29 人（男子 17 人, 女子 12 人）, 2 年次が 31 人(男子 12 人, 女子 19 人), 3 年次が 29 人（男子 13 人, 女子 16 人）で, 合計 89 人（男子 42 人, 女子 47 人）であった.

調査方法は質問紙法によって行い, 以下の